

# 地球科学輻合ゼミナール

## (2008年度 後期 第5回)のご案内

節足動物の化石を通してみる地球の過去・未来」

田中源吾  
(理学研究科リサーチフェロー)

講演内容の紹介：

節足動物は、この地球上の棲む生物種の3分の2を占めるだけでなく、深海から大気中まで様々な場所に生息している。地球は生命の星には違いないが、「節足動物の星」でもあるのだ。私の研究対象は、この節足動物の化石である。

本講演では、まず生物のかたちに急激な多様性が起こった、地球生命の大イベントの1つ「カンブリア爆発」の実態についての概略を説明する。つづいて、オストラコーダという節足動物の眼の進化についてふれ、顕生代以降の当該分類群の生息場の開拓史を概観する。また、沖縄県久米島に分布する新第三系島尻層群の古環境解析の結果についてふれ、古海中気候の指標としてオストラコーダが極めて重要であることを示す。最後に、バルト琥珀中のアシナガバエ化石の眼の構造についての研究成果を報告し、次世代エネルギーとして注目されている太陽光の利用について、古生物学者の観点から一石を投じたい。

11月5日(水) 午後4:30～午後6:00

場所：理学研究科6号館 201号室